



平成 30 年 4 月 27 日

各 位

神奈川県相模原市南区古淵二丁目 14 番 20 号
ブックオフコーポレーション株式会社
代表者 代表取締役社長 堀内 康隆
(コード番号:3313 東証第一部)
問合せ先 経営企画部長 田村 健一
電話番号 042-750-8588

業績予想の修正及び役員報酬の減額に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 29 年 5 月 10 日に公表した平成 30 年 3 月期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、このたびの修正を真摯に受け止め、経営責任を明確にするため、下記のとおり役員報酬を減額することといたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1.業績予想の修正について

(1) 修正の内容

平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 82,000	百万円 500	百万円 950	百万円 100	円銭 4.87
今回修正予想 (B)	80,000	600	1,050	△900	△43.80
増減額 (B-A)	△2,000	100	100	△1,000	
増減率 (%)	△2.4	20.0	10.5	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	81,344	116	588	△1,159	△56.41

(2) 修正の理由

当社は平成 30 年 3 月期において、「リユース店舗事業の収益力強化」及び「ハグオール事業の抜本的改革」の 2 点を重点施策として経営戦略を進めて参りました。

その結果、リユース店舗事業において当初想定を大きく上回る収益を獲得し、連結営業利益ならびに連結経常利益は前回公表予想を上回る見通しとなりました。

一方で、ハグオール事業においては催事販売「東京古着」の撤退やブックオフオンライン事業との

機能統合などを実施し収益化を目指したものの、平成 30 年 3 月期において収益化は困難な見通しとなりました。

これらの結果、親会社株主に帰属する当期純利益については前回公表予想を下回る見通しとなりました。

営業利益及び経常利益が前回公表予想を上回るにも関わらず、親会社株主に帰属する当期純利益が前回公表予想を下回る見通しとなった主な理由は下記の通りです。

① 特別損失

・ 減損損失

ハグオール事業において、平成 30 年 3 月期営業損失となる見通しとなったことから、物流倉庫内の設備等について減損損失を計上いたしました。また、ブックオフオンライン事業において機械設備の使用停止に伴う減損損失、リユース店舗事業において早期の黒字化が見込めない前期出店した大型複合店1店舗について減損損失を計上する見通しとなりました。

・ 店舗等閉鎖損失及び店舗等閉鎖損失引当金繰入

リユース店舗事業の収益力強化のため、収益状況のほか地理的要因や賃貸借契約の経済合理性を勘案し、不採算店舗の撤退判断を進めたため当該損失及び引当金を計上する見通しとなりました。加えて、ハグオール事業における物流センターの移転縮小に伴い当該損失及び引当金を計上する見通しとなりました。

上記 2 点を主な要因として、平成 30 年 3 月期特別損失 1,250 百万円を計上する見通しとなりました。

② 法人税等

繰越欠損金を有する連結子会社株式会社ハグオール(注)の収益が当初想定を下回り、当社並びに他の連結子会社の連結営業利益に占める割合が大きくなった結果、法人税等の負担率が当初想定を上回る見通しとなりました。

上記を主な要因として、平成 30 年 3 月期法人税等 783 百万円を計上する見通しとなりました。

なお、当期の配当予想(1 株当たり 10 円)に変更はございません。

(注)平成 30 年 3 月 21 日付で連結子会社ブックオフオンライン株式会社に吸収合併されております。

2.役員報酬の減額について

(1) 報酬減額の内容

代表取締役社長 月額報酬の 10%を減額

(2) 減額の対象期間

平成 30 年 5 月から平成 30 年 6 月まで

<注意事項>

上記に記載した予想数値は、作成日現在において入手可能な情報に基づき作成しておりますが、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。

以 上

本件に関するお問い合わせ先

経営企画部

原 良太郎

又村 一広

電話:042-750-8588